

中間評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会 平成27年10月16日(金)

研究課題	環境負荷を低減するための豚の飼料調整に関する研究	
研究期間	平成26年度～28年度	
	評価項目	平均点
	研究の進捗状況	3.5
	研究内容の妥当性	3.5
	目的達成の可能性	3.8
	期待される研究成果	3.3
	研究継続の必要性	3.8
	総合評点	3.6
<p>今までの成果として一定の知見を得ていると思われるので、継続することが妥当である。</p> <p>しかしながら、今後の研究の実施にあたっては、乳酸菌に特化する意義や乳酸菌の抗菌活性が消臭にどのように寄与しているのかを明確にすることが求められる。</p> <p>また、飼料に添加する乳酸菌について、高価な培地による増殖、凍結乾燥粉末にするための調整には相当なコストがかかることが問題である。そのため、生産した豚が高値で販売されなければ採算がとれないことから、コストパフォーマンスについても十分に配慮する必要がある。仮に、ブドウ搾り滓から得られた乳酸菌で消臭効果があるのであれば、コストの面から、ブドウ搾り滓そのものを餌に混ぜて与える方法も試す必要がある。併せて、これらの飼料を与えた場合の豚肉の官能検査を実施し、食味が向上するかについても検討すべきである。最終的には、ブドウ、ワインと言ったブランド性のある名称を維持することが重要である。</p> <p><input type="checkbox"/></p>		